

平成24年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度の5つの重点課題のうち、学習活動では昨年度より継続して「自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、定着」を目指し、互見授業や授業アンケートの実施および基礎計算力テストに目標値を設定するなど、様々な方策を試みた。資格取得ではリスニング英語検定や専門学科関連の資格、免許取得に良い成績を残し着実な学習の成果が得られた。全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰ゴールド6名、シルバー14名が受賞した。互見授業は実施率が低調で、教科内での連携にとどまらず、学校全体で情報交換しながら今後ともより授業改善につながる方法を検討していくことが必要がある。

生徒指導では、怠惰や寝坊で遅刻を繰り返す生徒数の減少(15名以下)を目標に取り組んだ。遅刻を繰り返す生徒に対する指導を粘り強く継続した結果、目標を達成したが、学校評議員会において、今後も根気強く指導を続けて欲しいと要望を受けた。また、登下校の交通事故防止に対する取組として、学校周辺における過去の事故現場を表示したハザードマップを作成し、新一年生に入学当初に配布、2・3年生には教室掲示した。しかし、交通事故の発生件数は目標を達成できなかった。今後も安全意識を高めて交通事故の減少を図りたい。

進路指導に関しては、インターンシップの満足度は高かった。生徒数の増加に対応してインターンシップ受入れ先も確保することができた。専門性を生かせる進路の選択については、就職では80%、進学で大学・短大が74%とまずまずであったが、専門学校で多くの生徒が専門以外へ進んだ。専門性を高めるための進路決定が次年度の大きな課題である。また、本年度は、国公立大学に8名(富大4名、県立大3名、千葉大1名)合格することができた。

特別活動を活性化させる取り組みとしては、部活動の継続率と学校行事の充実感に対するアンケートを実施し、マンネリ化や形骸化しつつある部活動や学校行事の内容の見直し改善を行った。結果は、部活動継続率は全体で95%と高い値を得た。学校行事の満足感は、運動会・球技大会は87%を超える高い値が得られた。また本校の最大行事である「尚美展」では、満足したと答えた生徒の割合が約80%を越えた。次年度以降も部活動の活性化と学校行事への積極的な取組みへの意識の高揚を図り、学習と部活動、奉仕・体験活動などの特別活動を両立させるよう努めたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、平成22年度から、二上工業高校と高岡工芸高校の再編統合により、新しい高岡工芸高校としてスタートし、本年度、新工芸高校の1回目の卒業生を送り出した。

新高校では工業系の5学科と工芸科、デザイン・絵画科の芸術系2学科の合わせて7学科が連携し、地域のものづくりの拠点校として優れた人材を輩出すべく、学習指導、生徒指導、進路指導のより実践的な取り組みが必要となる。このため、学習指導については、互見授業を積極的に行いさらなる授業の改善や質の向上に努めたい。また、生徒指導については、学校と家庭との情報の共有を図り、遅刻の防止や交通事故の防止などに努め高校生としての節度ある行動・態度がとれるよう人格形成に努めたい。進路指導については、インターンシップの実施により企業・地域との連携をさらに深め、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努めたい。

今後とも、職員間の連携を密接にとり、達成度のみに満足することなく、方針、計画などを検証し、積極的に課題に取り組むたい。